

3 果樹

1) りんご

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
赤 星 病	4月上旬 開花直前・ 落花直後 落花直後 随時	○ 中間宿主（びゃくしん類）上の赤星病を防除する（備考欄）。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ りんご園周辺にある中間寄主（びゃくしん類）を伐採する。	○ びゃくしん類にバシタック水和剤 75 を冬孢子堆膨潤前に散布する。
うどんこ病	落葉期間 (11 月~3 月) 発芽 2 週間以降 開花直前~ 落花 25 日後 随時	○ 被害新梢は、先刈りする。 ○ 第一次発生による被害部は、見つけ次第摘除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） QoI 剤 ユニックス顆粒水和剤 4 7 ○ 被害花葉、被害新梢を剪除する。	○ QoI 剤の使用は年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
褐 斑 病	落葉期間 (11 月~3 月) 落 花 期 5 月中旬 ~6 月中旬 6 月下旬 ~9 月	○ 本病の第一次伝染源となる前年の被害落葉を処理する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤 8 0 セルカディス D フロアブル - DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） オンリーワンフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル デランフロアブル（右備考参照） - Qo 1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 アリエッティ C 水和剤 オーソサイド水和剤 8 0 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤 80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 - Qo 1 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル 2 5 ツインバリアー水和剤 パレード 1 5 フロアブル フルーツガード WDG ナリア WDG	○ 本病の第一次感染は 5 月上旬頃から始まり、5 月下旬頃最盛期を迎える。前年本病の発生が多かった園地では、5 月下旬にオンリーワンフロアブル（DMI 剤）又はデランフロアブルを散布する。 ○ Qo 1 剤使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ Qo 1 剤使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
褐 斑 病	7月以降 6月下旬 ～7月中旬 9月中旬以 降（特散）	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 パスポート顆粒水和剤 ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 I C ボルドー 4 1 2 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストライド顆粒水和剤 ユニックス顆粒水和剤 4 7	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。 ○ ストライド顆粒水和剤は高温時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。
黒 星 病	落葉期間 開花期間 ～落花期 落花期 ～5月下旬 5月下旬 ～6月中旬 6月下旬 ～9月 7月 7月～9月	○ 被害葉は集めて適正に処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル セルカディス D フロアブル カナメフロアブル Qo 1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 Qo 1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー フルーツガード WDG ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティ C 水和剤 オーソサイド水和剤 8 0 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤 8 0 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ストロビルリン系剤 フリントフロアブル 25 Qo 1 剤 ナリア WDG	○ 園内を随時巡回して早期発見に努め、被害葉や被害果は直ちに集めて適正に処分する。 ○ Qo 1 剤の使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後 20 日までの間は散布を避ける。
黒 点 病	落葉時期 (11～3 月) 5月中旬 ～6月中旬	○ 園地の清掃を行う。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤 8 0 ダイパワー水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル Qo 1 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル 25 ファンタジスタ顆粒水和剤 ナリア WDG パスポート顆粒水和剤 フルーツセイバー	○ 園内を随時巡回して早期発見に努め、被害葉や被害果は直ちに集めて適正に処分する。 ○ Qo 1 剤の使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ 落花 15 日頃、落花 25 日頃はサビがでやすいので細霧で散布する。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
すす点病 すす斑病	6月～7月 6月～9月 7月 7月以降 随時	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 - Qo1剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG フルーツセイバー ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 有袋栽培では、薬剤を十分散布してから直ちに被袋する。 ○ 密植園、多湿園では発生が多いので改善する。	○ 散布間隔をあけすぎたり、最終散布を早く切り上げたりしない。 ○ ストライド顆粒水和剤はサビ果発生防止のため開花後から落花30日までの散布は避ける。高温時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。 ○ Qo1剤の使用は、年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。
炭 疽 病	6月～7月 6月～9月 7月 7月以降 6月下旬～7月中旬 7月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 デランフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 - Qo1剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 ICボルドー412 ○ 次の薬剤を散布する。 ベフキノン水和剤 ○ りんご園周辺にあるニセアカシア、クルミ類、イタチハギ等を伐採する。	○ ストライド顆粒水和剤はサビ果発生防止のため開花後から落花30日までの散布は避ける。樹勢が弱い樹では、梅雨明け頃の高温時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。 ○ Qo1剤使用は、年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
腐らん病	剪定時病患部削り取り直後 剪定時病患部削り取り直後 随時 休眠期	○ 次の薬剤いずれかを塗布または噴射する。 トップジンMオイルペースト（原液） トップジンMペースト（原液） バッチレート（原液） ○ 次の薬剤を噴射する。 フランカックスプレー ○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。 ○ 次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤	
胴枯病	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。	
モニリア病	落葉期間 (11月~3月) 発芽直後～ 発芽 10 日 後 開花直前 随時	○ 園内を清掃し、清耕とする。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストライド顆粒水和剤 パスポート顆粒水和剤 ○ 葉腐れ発生園や例年本病が多発する園は上記の防除に引き続き次の薬剤いずれかを散布する。 アンビルフロアブル QoI 剤 フルーツセイバー ○ 葉腐れ、花腐れは第二次伝染源、実腐れ、株腐れは翌年の発生源となるので、地面に落ちないうちに摘みとり適正に処分する。	○ 発芽直後の散布は遅れないようにする。 ○ アンビルフロアブル以外のDMI 剤はDMI 剤の使い方参照 ○ QoI 剤の使用は、年 2 回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)
紋 羽 病 (白紋羽病) (紫紋羽病) (白紋羽病、紫紋羽病)	植付前 苗木消毒 発病初期 発病初期 発病初期	○ 植付予定地を約 60cm の深さに耕起、整地し、30×30cm ごとに深さ 30～40cm の位置に、クロールピクリンを 5～10ml 注入して直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニールなどで被覆する。処理後 20 日以上経過してから植え付ける。 ○ 次の薬剤を根部浸漬し、直ちに植え付ける。 ベンレート水和剤 ○ 露出させた根の病患部を削り取り、落花直後までにフジワン粒剤を 1 樹当たり 3～5kg 掘り上げた土壌と混和して埋め戻す。 ○ 樹幹周辺部を掘りおこし、被害根を除去した後リゾレックス水和剤を灌注する。汚染土が薬液とよく混じるように埋め戻す。収穫 60 日前であれば生育期でも処理できる。 ○ フロンサイド S C を樹幹から半径 1m 程度の範囲に土壌灌注する。 ○ 被害が極めて軽度な場合は、被害根を露出して被害部を除去しそのまま半年～1 年放置してから覆土する。	○ 被害跡地の消毒は、整地前に被害根を完全に取り除いてから行う。 ○ 処理はできるだけ高温時に行う。 ○ 治療樹は、樹勢が回復するまで果実をつけず肥培管理を行う。また、常に検診を行い再発に注意する。 ○ 本病の治療は発病の初期でないと効果が期待できないので、常に検診を行い、早期発見に努める。 ○ フジワン粒剤は苗木に対して移植時に処理すると薬害を生ずる場合があるので、移植 1 年後以降に処理する。
斑点落葉病	落葉期間 (11月~3月) 落 花 期 5 月下旬 ～6 月中旬	○ 園地の清掃を行う。 ○ 剪定時に不必要な徒長枝は剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 混合剤(DMI 剤の使い方参照) トレノックスフロアブル チオノックフロアブル セルカディス D フロアブル カナメフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル	

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
斑点落葉病	5月下旬 ～6月中旬 6月上旬 ～6月中旬 6月下旬 ～7月中旬 7月以降 6月下旬 ～9月中旬 9月中旬以 降（特散） 随時	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 Qo1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ツインバリアー水和剤 パレード15フロアブル フルーツセイバー 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 Qo1 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 フルーツセイバー フルーツガードWDG ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 4-12式ボルドー液 ICボルドー412 デランフロアブル パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 キンセツ水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤80 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 Qo1 剤 ストロビードライフフロアブル フリントフロアブル25 ナリアWDG ユニックス顆粒水和剤47 ○ 有袋栽培で果実に発生を認めた場合は、直ちに除袋し、薬剤を散布する。 ○ 樹冠内部の不必要な徒長枝は剪除する。	○ Qo1 剤使用は、年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。 ○ ボルドー液と他の殺菌剤との交互散布はしない。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。 ○ ストライド顆粒水和剤はサビ果発生防止のため、開花後から落花30日までの散布は避ける。樹勢が弱い樹では、梅雨明け頃の高湿時に散布すると落葉を助長するおそれがあるので避ける。 ○ キンセツ水和剤80は薬害軽減のためクレフノンを必ず加用する。
輪 紋 病	落葉期間 (11月～3月) 6～8月 7月	○ 剪定枝は園内に放置しない。 ○ 剪定時には被害枝を剪除する。 ○ 3～5年枝を中心にいぼ枝を削り取る。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤80 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 Qo1 剤 ストロビードライフフロアブル フリントフロアブル25 ツインバリアー水和剤 フルーツガードWDG ナリアWDG ○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○ 薬剤は、枝幹、果実に十分にかかるように散布し、剪定した被害枝は園内に放置しない。 ○ Qo1 剤使用は、年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
輪 紋 病	7月以降 6月下旬 ～7月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 シトラノフロアブル ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 I Cボルドー412	○ シトラノフロアブルは 樹勢が弱い樹では連続散 布すると落葉することが あるので注意する。

(りんご) DMI 剤の使い方

薬 剤 名		赤星病	うどんこ病	褐斑病	黒星病	モニリア病	斑点落葉病
D M I 剤	アンビルフロアブル	◎	◎		◎	◎	○
	インダーフロアブル	◎	◎	○	◎	○	○
	オーシャイン水和剤	◎	◎		◎	○	○
	オンリーワンフロアブル		◎	◎	◎	○	○
	サルバトーレME	◎	◎		◎	○	
	サンリット水和剤	◎	◎	○	◎		○
	スコア顆粒水和剤	◎	◎		◎	○	○
	マネージDF	◎	◎		◎		
	ラリー水和剤	◎			◎		○
D M I 混 合 剤	+マンゼブ						
	ブローダ水和剤	◎	◎		◎	○	○
	スコアMZ水和剤	◎			◎		○

◎：効果が高い

注) DMI 剤及び DMI 混合剤は耐性菌出現防止のため、年間2回以内の使用とする。

(2) 農薬の使用法

○りんご(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤 星 病	う ど ん こ 病	褐 斑 病	黒 星 病	黒 点 病	すす 点 病	炭 疽 病	斑 点 落 葉 病	腐 ら ん 病	モ ニ リ ア 病	紋 羽 病	白 紋 羽 病	紫 紋 羽 病	輪 紋 病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンMオイルペースト									○						
1	チオファネートメチル	トップジンMペースト									○						
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤										①		○			
1	ベノミル	ベンレート水和剤												○			
7	ピラジフルミド	パレード15フロアブル			○					○							○
7	ベンチオピラド	フルーツセイバー				○	○	○		○	○						
11	クレソキシムメチル	ストロビードライフロアブル			○		○	○	○	○							○
11	トリフロキシストロピン	フリントフロアブル25			○	○	○	○	○	○							○
11	ビリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤			○	○	○			○							
29	フルアジナム	フロンサイドSC												○	○		
9	シプロジニル	ユニックス顆粒水和剤47		○	○					○							
6	イソプロチオラン	フジワン粒剤												○			
14	トルクロホスメチル	リゾレックス水和剤													○		
3	イミベンコナゾール	マネーヅDF	○	○		○											
3	オキスポコナゾールフマル酸塩	オーシャイン水和剤	○	○		○				○	○						
3	ジフェノコナゾール	スコア顆粒水和剤	○	○		○				○	○						
3	シメコナゾール	サンリット水和剤	○	○	○	○				○							
3	テトラコナゾール	サルバトーレME	○	○		○					○						
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル		○	○	○				○	○						
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○	○		○				○							
3	フェンブコナゾール	インダーフロアブル	○	○	○	○											
												○					
3	ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○	○		○				○	○						
3	マイクロブタニル	ラリー水和剤	○	○		○				○							
19	ポリオキシシンD亜鉛塩	フランカッツプレー									○						
P7	ホセチル	アリエッティ水和剤			○												
M1	塩基性硫酸銅	ICボルドー412			○					○	○						○
M1	有機銅	キノンドーフロアブル			○	○		○	○	○							○
M1	有機銅	キノンドー顆粒水和剤			○			○	○	○							○
M1	有機銅	キノンドー水和剤80			○	○		○	○	○							○
M1	有機銅	ドキリンフロアブル			○	○		○	○	○							○
M1	有機銅	パッチレート									○						
M3	チウラム	チオノックフロアブル	○		○	○	○	○	○	○							
M3	チウラム	トレノックスフロアブル	○		○	○	○	○	○	○							
M3	ブロビネブ	アントラコール顆粒水和剤			○	○		○		○							
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤80			○	○	○	○	○	○							
M5	TPN	パスポート顆粒水和剤			○	○	○	○	○	○	○						○

○りんご（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤 星 病	う ど ん こ 病	褐 斑 病	黒 星 病	黒 点 病	すす 点 病	炭 疽 病	斑 点 落 葉 病	腐 ら ん 病	モ ニ リ ア 病	紋 羽 病	白 紋 羽 病	紫 紋 羽 病	輪 紋 病	備 考
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコートフロアブル			○	○		○		○						○	
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコート水和剤			○			○		○						○	
M9	ジチアノン	デランフロアブル			○					○	○						
M11	フルオルイミド	ストライド顆粒水和剤			○			○	○	○		○					
11/7	ピラクロストロビン／ボスカリド	ナリアWDG			○	○	○	○	○	○						○	
M1/M1	水酸化第二銅／有機銅	キンセット水和剤 80								⑤							●葉害軽減のため、クレフノン を必ず加用する。
-	炭酸カルシウム	クレフノン（注⑤）															
M1/M5	有機銅／TPN	シトラノフロアブル														○	
M1/-	硫酸銅五水塩／生石灰	4-12式ボルドー液								○							
M3、 I:UN/3	マンゼブ／ミクロブタニル	ブローダ水和剤	○	○		○				○		○					
M4/7	キャプタン／ペンチオピラド	フルーツガードWDG			○	○				○						○	
M4/P7	キャプタン／ホセチル	アリエッティC水和剤			○	○		○	○	○						○	
M4/M1	キャプタン／有機銅	オキシラン水和剤			○	○		○	○	○						○	
M7/M4	イミノクタジナルベシル酸塩 ／キャプタン	ダイパワー水和剤			○	○	○	○	○	○						○	●使用回数は6回以内（ただし、 開花期以降散布は3回以内）
「-、 I:UN」	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤									○						
M3、 I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤			○	○		○	○	○							
M3、 I:UN	マンゼブ	ペンコゼブ水和剤			○	○			○	○							
I:8B	クロルピクリン	クロールピクリン											○				
M9/7	ジチアノン	セルカディスDフロアブル			○	○				○							

①「モニリア病（実腐れ）」での登録。

③ベルコートフロアブル、ベルコート水和剤及びダイパワー水和剤の使用回数は、6回以内（ただし、開花期以降散布は3回以内）。

④ペフラン液剤25の使用回数は、6回以内（ただし、開花期以降散布は3回以内）での登録。

⑤キンセット水和剤80は葉害軽減のため、クレフノンを必ず加用する。

（注）同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する。

2) りんご

(1) 防除法(殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した10a当り散布液量(または希釈水量)は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量(または希釈水量)の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・ユキヤナギアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 サイアノックス水和剤 スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤40 ダイアジノン水和剤34 ダントツ水溶剤 テルスター水和剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル ・リンゴミドリアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 テルスター水和剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル ・リンゴコブアブラムシ アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル コルト顆粒水和剤 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 モベントフロアブル	○ リンゴコブアブラムシは葉を巻くように加害する。
カメムシ類	7月下旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 キラップフロアブル スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤40 ダントツ水溶剤 テルスターフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	
キンモンホソガ 「	越冬期 (12～3月) 4～8月	○ 冬期間、落葉を集めて焼却または埋設処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・成虫発生初期 アクタラ顆粒水溶剤 アディオン水和剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 カスケード乳剤 キラップフロアブル コテツフロアブル サイハロン水和剤 サムコルフロアブル10 スカウトフロアブル スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 パーマチオン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤	○ 落葉中の蛹で越冬する。

ギンモンハ モグリガ	4～9 月	○ 次の薬剤いずれかを成虫発生盛期に散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アドマイヤー水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 カスケード乳剤 キラップフロアブル サムコルフロアブル 10 スタークル顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 モスピラン顆粒水溶剤	○ 発生回数が多いので防除時期に注意する。
クワコナカ イガラムシ	越冬期 (12～3 月) 5～8 月	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、被害果袋処理などの園内清掃を行う。 ○ マシン油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。 (「落葉果樹」の項 参照) ○ 幼虫のふ化期に次の薬剤いずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤 40 ダーズバン DF ダイアジノン水和剤 34 ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル	○ 薬剤は、枝幹にも十分散布する。
ケムシ類	越冬期 (12～3 月) 4～9 月	○ 冬期間、園内を清掃する。 ○ 幼虫ふ化初期の群生している枝を除去して焼却する。 ○ 幼虫発生時に次の薬剤いずれかを散布する。 アタブロン SC サムコルフロアブル 10 ダイアジノン水和剤 34 トアロー水和剤 CT ○ 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 (「果樹類」の項 参照)	○ マイマイガ、ウメケムシ、モンクロシャチホコ、ヒメシロモンドクガなど。
ナシヒメシ ンクイ	越冬期 (12～3 月) 5～9 月	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○ 幼虫期に次の薬剤いずれかを数回散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル 10 スタークル顆粒水溶剤 ダイアジノン水和剤 34 ダントツ水溶剤 バリアード顆粒水和剤 フェニックスフロアブル ディアナ WDG ○ 多発園では、殺虫剤散布の補助手段として、コンフューザー AA またはコンフューザー N、コンフューザー R (性フェロモン剤) を使用してもよい。 (「環境にやさしい防除法 4) 性フェロモン剤」の項 参照)	○ 付近にももがある場合は芯折れの発生に注意し見つけ次第除去する。
ハダニ類	越冬期 (3 月) 4～8 月	○ 次の薬剤のいずれかを散布する。 ・リンゴハダニ越冬卵 マシン油乳剤 石灰硫黄合剤 (「落葉果樹」の項 参照) ・リンゴハダニ アーデント水和剤 オマイト水和剤 カネマイトフロアブル コロマイト乳剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル バロックフロアブル ピラニカ水和剤 ダニオーテフロアブル	○ マシン油乳剤、石灰硫黄合剤については、風のない暖かい日を選んで散布する。 ○ 園地を見守り、ハダニが1 葉当り 3 頭以上寄生している場合には防除を実施する。 ○ コロマイトは 8 月以降に展着剤を加用せず単用で使用する。 ○ バロックフロアブルをボルドー体系で使用する場合は、ボルドー液散布と 14 日以上の間隔をあけて散布する。 ○ ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は 10 日以上間隔を開ける。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
ハダニ類 (続き)		・ナミハダニ - アーデント水和剤 - オマイト水和剤 - カネマイトフロアブル - コテツフロアブル - コロマイト乳剤 - スターマイトフロアブル - ダニゲッターフロアブル - ダニコングフロアブル - ダニサラバフロアブル - ダニトロンフロアブル - バロックフロアブル - ピラニカ水和剤 - マイトクリーン - マイトコーネフロアブル - ダニオーテフロアブル	○ コテツフロアブル、カネマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダニサラバフロアブルをボルドー体系で使用する場合は、ボルドー液散布との間隔を 14 日以上あけて散布する。 ○ ナミハダニに対し、ダニトロン、ピラニカ、マイトクリーンは効果が劣る事例が多いので注意する。 ○ ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は 10 日以上間隔を開ける。
ハマキムシ類	越冬期 (12～3 月) 4 月中旬 ～8 月	○ 剪定時に越冬幼虫、卵を擦りつぶして除去し、粗皮削りを行う。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 アタブロン S C オリオン水和剤 4 0 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル 1 0 スミチオン水和剤 4 0 ダーズバン D F ○ 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 (「果樹類」の項 参照)	○ リンゴモンハマキが優占種である。 ○ 同一殺虫剤の連用は避ける。
モモシンクイガ	6 月中旬 ～9 月上旬	○ 被害果を幼虫脱出前に摘み取り、5 日以上水漬する。被害果処理は必ず実施する。 ○ 産卵期に次の薬剤いずれかを約 10 日間隔で散布する。 アーデント水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 アディオン水和剤 アルバリン顆粒水溶剤 オリオン水和剤 4 0 キラップフロアブル サイアノックス水和剤 サイハロン水和剤 サムコルフロアブル 1 0 スカウトフロアブル スタークル顆粒水溶剤 スミチオン水和剤 4 0 ダーズバン D F ダイアジノン水和剤 3 4 ダントツ水溶剤 テルスターフロアブル パーマチオン水和剤 バリアード顆粒水和剤 フェニックス顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 フェニックスフロアブル ディアナ WDG ○ 激発園では袋掛けを行う。 ○ 多発園では、殺虫剤散布の補助手段として、コンフューザー A A またはコンフューザー N、コンフューザー R (性フェロモン剤) を使用してもよい。 (「環境にやさしい防除法 4) 性フェロモン剤」の項 参照) ○ 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。(「果樹類」の項 参照)	○ 薬剤は、果実に十分付着するように散布する。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
リンゴワタムシ	6月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ダーズバンDF ダイアジノン水和剤34 ダントツ水溶剤 トランスフォームフロアブル バリアード顆粒水和剤 マラソン乳剤	
オオタバコガ		○ 中齢幼虫期に次の薬剤を散布する。 サムコルフロアブル10	○発生の多い園地では発生に応じて散布する。
ヒメボクトウ		○ 収穫前日までに以下の薬剤を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。 ロビンフッド	

○りんご（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ユキヤナギアブラムシ	リンゴミドリアブラムシ	カメムシ類	キンモンホソガ	キンモンハモグリガ	クワコナカイガラムシ	ケムシ類	リンゴハダニ	ナミハダニ	ハマキムシ類	シンクイムシ類	モモシンクイガ	ナシヒメシンクイ	リンゴワタムシ	ヒメボクトウ	オオタバコガ	備考
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル								④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。
25B	ピフルブミド	ダニコングフロアブル								④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。
28	クロラントラニリブロール	サムコルフロアブル10				○	○	○				○	○						防除指針では「キンモンホソガ」、「ギンモンハモグリガ」、「ケムシ類」、「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
																		○	防除指針では「オオタバコガ」を記載。
28	シアントラニリブロール	エクシレルSE				○													防除指針では「キンモンホソガ」を記載。
												○	○						防除指針では「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックスフロアブル											○						防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックス顆粒水和剤											○						防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	テトラニリブロール	ヨーバルフロアブル										○	○						防除指針では「ハマキムシ類」、「シンクイムシ類」を記載。
3A/1B	フェンバレーレート／MEP	パーマテオン水和剤				○							○						防除指針では「キンモンホソガ」、「シンクイムシ類」を記載。
-	(Z)-10-テトラデセン酸7-オクト・(E、Z)-4、10-テトラデカノール7-オクト・(Z)-8-ドデセン酸7-オクト・(Z)-11-テトラデセン酸7-オクト・(Z)-9-テトラデセン酸7-オクト・10-メチルドデセン酸7-オクト・(Z)-9-ドデセン酸7-オクト・(Z)-9-ドデセン酸7-オクト・11-ドデセン酸7-オクト・(Z)-11-テトラデセン酸7-オクト・(Z)-13-イコセン酸10-オクト	コンフューザーA A				⑥								⑥	⑥				防除指針では「キンモンホソガ」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
-	(Z)-8-ドデセン酸7-オクト・(Z)-11-テトラデセン酸7-オクト・(Z)-9-テトラデセン酸7-オクト・10-メチルドデセン酸7-オクト・(Z)-9-ドデセン酸7-オクト・11-ドデセン酸7-オクト・(Z)-11-テトラデセン酸7-オクト・(Z)-13-イコセン酸10-オクト	コンフューザーN												⑥					防除指針では「モモシンクイガ」を記載。
														⑥					防除指針では「ナシヒメシンクイ」を記載。
-	(Z)-8-ドデセン酸7-オクト・(Z)-11-テトラデセン酸7-オクト・(Z)-9-テトラデセン酸7-オクト・10-メチルドデセン酸7-オクト・(Z)-9-ドデセン酸7-オクト・11-ドデセン酸7-オクト・(Z)-11-テトラデセン酸7-オクト・(Z)-13-イコセン酸10-オクト	コンフューザーR												⑥	⑥				防除指針では「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
33	アシノナビル	ダニオーテフロアブル								④	④								防除指針では「ハダニ類」を記載。

①コナカイガラムシ類、又はカイガラムシ類での登録。

②若齢幼虫での登録。

③モンシロドクガ、アメリカシロヒトリでの登録。

④ハダニ類での登録。

⑤ヒメシロモンドクガでの登録。

⑥果樹類での登録。

※ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシ、リンゴコブアブラムシは、すべてアブラムシ類での登録。

（注）同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農業の容器（袋）のラベルを確認する。

2) 日本なし

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病害虫名	防除適期	防 除 方 法	備 考
赤星病	4月上旬 4月中旬～落花直後 落花後～5月下旬 随時	○ 中間宿主（びゃくしん類）上の赤星病を防除する（備考欄）。 ○ 次のDMI 剤いずれかを散布する。 アンビルフロアブル インダーフロアブル オンリーワンフロアブル サルバトーレME サンリット水和剤 スコア顆粒水和剤 トリフミン水和剤 マネージDF ラリー水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル アミド系剤 フルーツセイバー カナメフロアブル アクサーフロアブル ○ なし園周辺にある中間宿主（びゃくしん類）を伐採する	○ びゃくしん類にバシタック水和剤75を散布する。 ○ 赤星病の発生が予想される場合とは、付近にびゃくしん類がある場合、開花直前の散布が順調に行えなかった場合である。 ○ DMI 剤及びDMI 混合剤は耐性菌出現防止のため、年間2回以内の使用とする。 ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
黒星病	落葉期間（11～3月） 収穫後～開花前 発芽前 脱ぼう直前～4月中旬 開花直前～落花前 5月中旬～7月中旬	○ 園地は清掃し、被害枝を剪除する。 ○ 落葉処理を実施する。 ○ ICボルドー48Qを散布する ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アルタベールフロアブル 石灰硫黄合剤 ○ 芽基部病斑のある株を摘み取り適切に処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 6-12式ボルドー液 オキシラン水和剤 ○ 次のDMI 剤またはDMI 混合剤のいずれかを散布する。 アクサーフロアブル アンビルフロアブル インダーフロアブル スコア顆粒水和剤 トリフミン水和剤 マネージDF ラリー水和剤 セルカディスDフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル スクレアフロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 オキシラン水和剤 キノンドーフロアブル キャプレート水和剤 チオノックフロアブル デランフロアブル トレノックスフロアブル ミギワ20フロアブル アミド系剤 カナメフロアブル バレード15フロアブル フルーツセイバー フルーツガードWDG ベルコート水和剤	○ ICボルドー48Qは、高温時に散布すると銅による薬害を生じる恐れがある。 ○ DMI 剤及びDMI 混合剤は耐性菌出現防止のため、年間2回以内の使用とする。 ○ アミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法	備 考
黒星病	5月中旬 ～7月中旬 収穫後 (特散)	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ユニックス顆粒水和剤 47 ○ 黒星病の発生が多い場合は、収穫後に次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤 80 ベルコート水和剤	○ 左記の特散を行う場合、混植園では、各薬剤の収穫前日数に注意する。
黒斑病	落葉期間 (11月～3月) 発芽前 脱ぼう直前 ～4月中旬 開花直前 ～9月上旬	○ 園地を清掃する。 ○ 被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤を散布する。 アルタパールフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 6-12式ボルドー液 オキシラン水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル ストロビードライフロアブル アリエッティC水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オキシンドー水和剤 80 オキシラン水和剤 キノンドー水和剤 40 キノンドー水和剤 80 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル デランフロアブル ポリベリン水和剤 ユニックス顆粒水和剤 47 ロブドー水和剤	○ 有袋栽培では、小袋かけ前に有機銅剤等を十分に散布し直ちに被袋する。 ○ ロブドー水和剤は、連続使用を避け、年間2回以内の使用とする。 ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止)
胴枯病	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや、被害枝を剪除して適切に処分する。 ○ 病患部を削り取った切口に次の薬剤いずれかを塗布。 トップジンMペースト バッチレート	○ '幸水'は胴枯病に弱い品種なので注意する。新水、八雲、'豊水'は中程度。
白紋羽病	植付時 休眠期	○ トップジンM水和剤に根部を浸漬し、直ちに植え付ける。 ○ 樹幹周辺を掘りおこし、被害根を除去した後、落花20日後までにトップジンM水和剤を灌注する。 ○ フロンサイドSCを灌注する。	
輪紋病	落葉期間 (11月～3月) 6月中旬 ～8月上旬	○ 剪定枝は園内に放置しない。 ○ 剪定時に被害枝を剪除する。 ○ 枝病斑を削り取りトップジンMペーストを塗布する。 次の薬剤いずれかを散布する。 ○ ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル スクレアフロアブル ストロビードライフロアブル アミド系剤 フルーツガードWDG ストロビルリン系・アミド系混合剤 ナリア WDG オキシラン水和剤 キノンドー水和剤 80 キャプレート水和剤 ダイパワー水和剤 デランフロアブル ベルコート水和剤	○ 薬剤は、枝幹及び果実に十分かかるように散布し、被害枝は園内に放置しない。 ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止) ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止)

(2) 農薬の使用方法
○日本なし(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤 星 病	黒 星 病	黒 斑 病	胴 枯 病	白 紋 羽 病	輪 紋 病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンMペースト				○		○	
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤					○		
7	イソピラザム	ネクスターフロアブル		○					
7	インビルフルキサム	カナメフロアブル	○	○					
7	ペンチオピラド	フルーツセイバー	○	○					
11	アゾキシストロビン	アミスター10フロアブル		○	○			○	
11	クレソキシムメチル	ストロビードライフロアブル		○	○			○	
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤		○					
11	マンデストロビン	スクレアフロアブル		○				○	
29	フルアジナム	フロンサイドSC					○		●白紋羽病(土壌灌注)のみ採用
9	シブロジニル	ユニックス顆粒水和剤47		○	○				
3	イミベンコナゾール	マネーJD F	○	○					
3	ジフェノコナゾール	スコア顆粒水和剤	○	○					
3	シメコナゾール	サンリット水和剤	○						
3	テトラコナゾール	サルバトーレME	○						
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル	○						
3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○	○					
3	フェンブコナゾール	インダーフロアブル	○	○					
3	ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○	○					
3	ミクロブタニル	ラリー水和剤	○	○					
M1	塩基性硫酸銅	ICボルドー48Q		○					
M1	有機銅	オキシンドー水和剤80			○				
M1	有機銅	キノンドーフロアブル		○					
M1	有機銅	キノンドー水和剤40			○				
M1	有機銅	キノンドー水和剤80			○			○	
M1	有機銅	バッチレート				○			
M3	チウラム	チオノックフロアブル	○	○	○				
M3	チウラム	トレノックスフロアブル	○	○	○				
M3	プロピネブ	アントラコール顆粒水和剤		○	○				
M4	キャプタン	オーソサイド水和剤80		○					
M7	イミノクタジナルベシル酸塩	ベルコート水和剤		○				○	
M9	ジチアノン	デランフロアブル		○	○			○	
11/7	ピラクロストロビン/ボスカリド	ナリアWDG						○	
2/M1	イブロジオン/有機銅	ロブドー水和剤			○				
3/7	ジフェノコナゾール/フルキサピ ロキサド	アクサーフロアブル		○					
NC/M1	マシン油/有機銅	アルタベールフロアブル		○	○				
M1/-	硫酸銅五水塩/生石灰	6-12式ボルドー液		○	○				
M4/1	キャプタン/ベノミル	キャブレート水和剤		○				○	
M4/7	キャプタン/ペンチオピラド	フルーツガードWDG		○				○	
M4/P7	キャプタン/ホセチル	アリエッティC水和剤			○				
M4/M1	キャプタン/有機銅	オキシラン水和剤		○	○			○	
M7/M4	イミノクタジナルベシル酸塩/ キャプタン	ダイパワー水和剤						○	

○日本なし（殺菌剤）

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	赤 星 病	黒 星 病	黒 斑 病	胴 枯 病	白 紋 羽 病	輪 紋 病	備考
「-、I:UN」	石灰硫黄合剤	石灰硫黄合剤		○					
M9/7	ジチアノン/ゼミウム	セルカディスDフロアブル		○					
3/7	ジフェノコナゾール/ゼミウム	アクサーフロアブル	○						
52	イピフルフェノキン	ミギワ20フロアブル		○					
7 (G2)	ピラジフルミド	パレード15フロアブル		○					

（注）同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

3) 日本なし

(1) 防除法(殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した10a当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4～7月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ・ユキヤナギアブラムシ、ナシノアブラムシ等 モベントフロアブル コルト顆粒水和剤 サイアノックス水和剤 スミチオン水和剤40 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤34 モスピラン顆粒水溶剤 ・ワタアブラムシ、リンゴミドリアブラムシ モベントフロアブル アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 コルト顆粒水和剤 サイハロン水和剤 テルスター水和剤 ハチハチフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	
カメムシ類	5～6月 8～9月	○ 飛来成虫を早朝捕殺する。 ○ 成虫発生期に次の薬剤いずれかを散布する。 アドマイヤー水和剤 アドマイヤー顆粒水和剤 サイハロン水和剤 スミチオン水和剤40 モスピラン顆粒水溶剤	○ クサギカメムシが優占種である。山沿いの園に多い。
クワコナカイガラムシ	越冬期 (12～3月)	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、被害果袋処理などの園内清掃を行う。 ○ マシン油乳剤または石灰硫黄合剤を散布する。 （「落葉果樹」の項を参照）	
ナシグンバイ	3～9月	○ 幼虫発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤34 デナボン水和剤50 ミクロデナボン水和剤85	
ナシヒメシンクイ (シンクイムシ類)	越冬期 (12～3月) 6月中旬～ 8月下旬	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○ 幼虫発生期に次の薬剤いずれかを散布する。 オリオン水和剤40 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル10 スミチオン水和剤40 スミチオン乳剤 ダーズバンDF ダイアジノン水和剤34 ディアナWDG フェニックスフロアブル ヨーバルフロアブル テッパン液剤 エクシレルSE	○ スミチオンは早生赤に薬害があるので使用しない。 ○ ダーズバンは7月中旬以降'豊水'の果点荒れを助長するおそれがあるので使用しない。

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法	備 考
ハダニ類	休眠期 発芽前 5月上旬～9月上旬	・リンゴハダニの越冬卵 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アルタベールフロアブル マシン油乳剤（「落葉果樹」の項 参照） 石灰硫黄合剤（「落葉果樹」の項 参照） ・リンゴハダニの発生初期 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 コロマイト水和剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 ダニオーテフロアブル ○ ・ナミハダニ、カンザワハダニの発生初期 次の薬剤いずれかを散布する。 カネマイトフロアブル コテツフロアブル コロマイト水和剤 スターマイトフロアブル ダニゲッターフロアブル ダニコングフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル バロックフロアブル ピラニカ水和剤 マイトコーネフロアブル ダニオーテフロアブル	○ 同一殺ダニ剤の連用はしない。 ○ ダニトロン、サンマイト、ピラニカは眼に入らないようにする。 ○ バロックフロアブルをボルドー体系で使用する場合は、ボルドー液散布と14日以上の間隔をあけて散布する。 ○ マイトコーネフロアブル、ダニゲッターフロアブル、ダニサラバフロアブルをボルドー体系で使用する場合、ボルドー液との間隔を14日以上あけて散布する。 ○ カネマイトフロアブルは満開後30日までは葉に薬害が出るおそれがあるので使用しない。 ○ ナミハダニに対し、サンマイト、ダニトロン、ピラニカ、は効果が劣る事例が多いので注意する。 ○ ダニオーテフロアブルは銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は10日以上間隔を開ける。
ニセナシ サビダニ	発生初期 (5～7月)	○ ハチハチフロアブルを散布する。	
ハマキムシ 類	越冬期 (12～3月) 4～8月	○ 剪定時には越冬幼虫、卵の除去、粗皮削りを行う。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 オリオン水和剤40 サイアノックス水和剤 スミチオン水和剤40 スミチオン乳剤 ダーズバンDF ダイアジノン水和剤34 デナボン水和剤50 ヨーバルフロアブル テッパン液剤 果樹類の登録薬剤を散布してもよい。 ○（「果樹類」の項 参照）	○ スミチオン、ダーズバンは、薬害のおそれがあるので、落花後1か月間は使用しない。 ○ ダーズバンは7月中旬以降'豊水'の果点荒れを助長するおそれがあるので使用しない。 ○ NAC剤は、5月中は使用しない。 ○ 同一殺虫剤の連用は避ける。

(2) 農薬の使用方法
○日本なし(殺虫剤)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ユキヤナギアブラムシ	ナシノアブラムシ	ワタアブラムシ	リンゴミドリアブラムシ	カメムシ類	ナシグンバイ	シンクイムシ類	ナシヒメシンクイ	リンゴハダニ	ナミハダニ	カンザワハダニ	ニセナシサビダニ	ヒメボクトウ	ハマキムシ類	備考
1A	NAC	デナボン水和剤 50						①							○		防除指針では「ナシグンバイ」、「ハマキムシ類」を記載。
1A	NAC	ミクロデナボン水和剤 85						○									防除指針では「ナシグンバイ」を記載。
1A	アラニカルブ	オリオン水和剤 40							○						○		防除指針では「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	CYAP	サイアノックス水和剤	○						○						○		防除指針では「アブラムシ類」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。 防除指針では「アブラムシ類」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	MEP	スミチオン水和剤 40	○				○			②					○		防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「ナシヒメシンクイ」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	MEP	スミチオン乳剤	○					○	○						○		防除指針では「アブラムシ類」、「ナシグンバイ」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	クロルピリホス	ダーズバンDF							○						○		防除指針では「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン水和剤 34	○					○	○						○		防除指針では「アブラムシ類」、「ナシグンバイ」、「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
3A	シハロトリン	サイハロン水和剤			○	○											防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
3A	ビフェントリン	テルスター水和剤			○												防除指針では「アブラムシ類」を記載。
3A	フェンプロパトリン	ロビンフット													○		防除指針では「ヒメボクトウ」を記載。
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	○		○	○											防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー顆粒水和剤			○	○											防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
4A	イミダクロプリド	アドマイヤー水和剤			○	○											防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」を記載。
5	スピネトラム	ディアナWDG							○								防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
6	ミルベメクテン	コロマイト水和剤									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
9B	ビリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤	○		○												防除指針では「アブラムシ類」を記載。
10B	エトキサゾール	バロックフロアブル										③					防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
13	クロルフェナビル	コテツフロアブル											○				防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル										③					防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル										③					防除指針では「ナミハダニ」、「カンザワハダニ」を記載。
21A	テブフェンピラド	ピラニカ水和剤									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
23	スピロテトラマト	モベントフロアブル	○		○									○			防除指針では「アブラムシ類」、「ニセナシサビダニ」を記載。
23	スピロメシフェン	ダニゲッターフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シェノピラフェン	スターマイトフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
25B	ピフルブミド	ダニコングフロアブル									③	③					防除指針では「ハダニ類」を記載。
28	クロラントラニリブロール	サムコルフロアブル 10							○								防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックスフロアブル							○								防除指針では「シンクイムシ類」を記載。
28	テトラニリブロール	ヨーバルフロアブル							○						○	○	防除指針では「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」、「ヒメボクトウ」を記載。
28	シクラニリブロール	テツパン液剤							○						○		防除指針では「シンクイムシ類」、「ハマキムシ類」を記載。
21A,F:39	トルフェンピラド	ハチハチフロアブル			○									○			防除指針では「アブラムシ類」、「ニセナシサビダニ」を記載。
F:NC/M1	マシン油／有機銅	アルタペールフロアブル									③						防除指針では「リンゴハダニ」を記載。
33	アシノナビル	ダニオーテフロアブル									③	③					
28	シアントラニリブロール	エクシレルSE							○	②							

①ゲンバイムシ類での登録。

②シンクイムシ類での登録。

③ハダニ類での登録。

※すべてアブラムシ類での登録。

(注) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認する。

3) も も

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
黒 星 病	落葉期間 (11 月～3 月) 5 月中旬 ～7 月上旬	○ 剪定時に被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 イオウフロアブル サルファーズ トレノックスフロアブル ダコニール 1 0 0 0 デランフロアブル チオノックフロアブル ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル アミド系剤 フルーツセイバー DMI 剤 アンビルフロアブル インダーフロアブル オーシャイン水和剤 オンリーワンフロアブル ストロビルリン系剤 アミスター 1 0 フロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ストロビルリン系・アミド系混合剤 ナリアWDG	○ 果実によく付着するように散布する。 ○ サルファーズ、イオウフロアブルは、高温時（28℃以上）には薬害のおそれがあるので使用しない。 ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年 2 回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止) ○ DMI 剤の使用は年 2 回以内とし、連用しない (耐性菌出現防止)。 ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年 2 回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)
縮 葉 病	発 病 前 (3 月中旬～下旬) 随 時	○ 次の薬剤を散布する。 キノンドー水和剤 4 0 オキシンドー水和剤 8 0 ドキリンフロアブル ○ 被害葉は、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。	○ 温暖無風の日を選び小枝の先まで十分にかかるように散布する。
せん孔細菌病	落葉期間 (11 月～3 月) 開花直前 落花後 ～5 月下旬 収 穫 後 随 時	○ 被害枝を剪除する。 ○ コサイド 3000 を散布する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アグリマイシンー 1 0 0 デランフロアブル マイコシールド ○ 収穫後に次の薬剤いずれかを散布する。 4－1 2 式ボルドー液 I C ボルドー 4 1 2 コサイド 3000 ○ 園地に防風垣などを設ける。 ○ 適切な肥培管理を行って樹勢の回復を図る。	○ 落花直後から 10 日ごとに散布する。 ○ アグリマイシンー 1 0 0 とマイコシールドは連用を避ける。 ○ 収穫後のコサイド 3000 散布は、薬害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を加用して 9 月以降に散布する。
灰星病	落葉期間 (11 月～3 月) 6 月下旬 ～8 月下旬	○ 園地を清掃する。 ○ 被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ダコニール 1 0 0 0 ダコレート水和剤 ダコレックス水和剤 トップジンM水和剤 アミド系剤 フルーツセイバー ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 パスワード顆粒水和剤	○ 雨が多いと発病が増加するで、散布間隔を短縮する。 ○ 「すもも」などの被害果も伝染源となるので注意する。 ○ トップジンM水和剤、ベンレート水和剤、ロブラール水和剤は連用を避ける。 ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年 2 回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
灰星病 (続き)	6月下旬 ～8月下旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤 アンビルフロアブル インダーフロアブル オーシャイン水和剤 オンリーワンフロアブル スコア顆粒水和剤 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ストロビルリン系・アミド系混合剤 ナリアWDG ○ 園内や集果所では、被害果を見つけ次第、集めて土中に埋める。	○ DMI 剤の使用は年2回以内とし、連用しない (耐性菌出現防止)。 ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)
ホモブシス 腐敗病	落葉期間 (11月～3月) 6月下旬 ～8月上旬	○ 被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ダコレート水和剤 ダコレックス水和剤 トップジンM水和剤 ストロビルリン系剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ストロビルリン系・アミド系混合剤 ナリアWDG ピーチガード水和剤 ベルコートフロアブル ベンレート水和剤	○ トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は、連用を避ける。 (耐性菌出現防止) ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止) ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)

(2) 農薬の使用方法

○もも(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	黒 星 病	縮 葉 病	せん 孔 細 菌 病	灰 星 病	ホ モ ブ シ ス 腐 敗 病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤				○	○	
1	ベノミル	ベンレート水和剤				○	○	
7	ペンチオピラド	フルーツセイバー	○			○		
11	アゾキシストロビン	アミスター10フロアブル	○			○		
11	クレソキシムメチル	ストロビードライフロアブル	○			○		
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤	○			○	○	
41	オキシテトラサイクリン	マイコシールド			○			
2	イプロジオン	ロブラール水和剤				○		
3	オキスポコナゾールフマル酸塩	オーシャイン水和剤	○			○		
3	ジフェノコナゾール	スコア顆粒水和剤				○		
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル	○			○		
3	フェンブコナゾール	インダーフロアブル	○			○		
3	ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○			○		
17	フェンヘキサミド	パスワード顆粒水和剤				○		
M1	塩基性硫酸銅	ICボルドー412			○			
M1	水酸化第二銅	コサイド3000			○			
M1	有機銅	オキシンドー水和剤80		○				
M1	有機銅	キノンドー水和剤40		○				
M1	有機銅	ドキリンフロアブル		○				
M1	有機銅	バッチレート	※①					●傷口のゆ合促進として使用する。
M3	チウラム	チオノックフロアブル	○					
M3	チウラム	トレノックスフロアブル	○					
M5	TPN	ダコニール1000	○			○		
M7	イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルコート水和剤	○			○		
M7	イミノクタジンアルベシル酸塩	ベルコートフロアブル	○			○	○	
M9	ジチアノン	デランフロアブル	○		○			
1/M5	ベノミル/TPN	ダコレート水和剤				○	○	
11/7	ピラクロストロビン/ボスカリド	ナリアWDG	○			○	○	
41/25	オキシテトラサイクリン/ストレプトマイシン硫酸塩	アグリマイシン100			○			
2/M5	プロシミドン/TPN	ダコレックス水和剤				○	○	
M1/-	硫酸銅五水塩/生石灰	4-12式ボルドー液			○			
M2, I:UN	硫黄	イオウフロアブル	○					
M2, I:UN	硫黄	サルファーゾル	○					

①傷口のゆ合促進として使用する。

(注) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認する。

3) も も

(1) 防除法(殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4～6 月	○ 発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 サイアノックス水和剤 ダイアジノン水和剤 3 4 モスピラン顆粒水溶剤	○ カワリコブアブラムシ、モモコフキアブラムシが主体である。 ○ ネクタリンでは品種により葉に葉害を生ずることがあるので注意する。
果実吸蛾類	8～9 月	○ 夜間捕殺を行う。 ○ 被害の激しい園では、白熱灯または黄色灯の電灯照明により防除する。	○ アケビコノハ、アカエグリバが主要種である。
カメムシ類	5～6 月	○ 飛来成虫を早朝捕殺する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン乳剤 スミチオン水和剤 4 0 モスピラン顆粒水溶剤	○ クサギカメムシが優占種である。山沿いの園に多い。
クワシロカイガラムシ	越冬期 (3 月)	○ 発芽前にマシン油乳剤か石灰硫黄合剤を散布する。 （「落葉果樹」の項 参照）	○ マシン油乳剤の散布は、虫をこすり落とした後に行えば効果が高い。
コスカシバ	休眠期 (10～3 月) 生育期 (7～9 月)	○ 幼虫を刺殺する。 ○ 休眠期間中に次の薬剤いずれかを枝幹に十分散布する。 ガットキラー乳剤 サッチューコート S トラサイド A 乳剤 ラビキラー乳剤 ○ 多発園では、スカシバコンを使用してもよい。 （「環境にやさしい防除法 4」性フェロモン剤の項 参照）	○ 幼虫の刺殺は、雨上がりに虫糞を目あてに行う。
ナシヒメシ ンクイ	越冬期 (12～3 月) 5～9 月	○ バンド誘殺を行い、冬期間に粗皮削り、園内清掃を行う。 ○ 幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル 1 0 ダイアジノン水和剤 3 4 フェニックスフロアブル モスピラン顆粒水溶剤	○ 芯折れを見つけ次第除去する。
ハダニ類	4～8 月	○ 発生初期に次の薬剤いずれかを散布する。 オマイト水和剤 カネマイトフロアブル スターマイトフロアブル ダニサラバフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカ水和剤 マイトコーネフロアブル	○ ダニトロンフロアブル、サンマイト水和剤、ピラニカ水和剤は眼に入らないように注意する。

モモシンクイガ（シンクイムシ類）	6～8月	○ 被害果を幼虫脱出前に摘み取り、5日以上水漬する。被害果処理は必ず実施する。 ○ 産卵期に次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン乳剤 サイアノックス水和剤 サムコルフロアブル10 スミチオン水和剤40 ダーズバンDF ダイアジノン水和剤34 モスピラン顆粒水溶剤 フェニックスフロアブル ○ 多発園では袋掛けを実施する。	
モモノゴマダラノメイガ	越冬期 (12～3月)	○ バンド誘殺、粗皮削りを行う。 ○ 冬期間園内の清掃を行う。	
モモハモグリガ	越冬期 (12～3月) 5～8月 (収穫後)	○ 越冬期間中に園内の清掃を行う。 ○ 発生期間中に落葉があれば、集めて焼却処分する。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン乳剤 サムコルフロアブル10 モスピラン顆粒水溶剤 フェニックスフロアブル ヨーバルフロアブル	○ 発生回数が多いので注意する。

(2) 農薬の使用方法

○もも(殺虫剤)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	カ メ ム シ 類	コ ス カ シ バ	ハ ダ ニ 類	モ モ シ ン ク イ ガ	ナ シ ヒ メ シ ン ク イ	モ モ ハ モ グ リ ガ	備考
1B	C Y A P	サイアノックス水和剤	○				①	①		防除指針では「アブラムシ類」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
1B	M E P	ガットキラー乳剤			○					防除指針では「コスカシバ」を記載。
1B	M E P	サッチューコートS			○					防除指針では「コスカシバ」を記載。
1B	M E P	スミチオン水和剤 4 0		○			①			防除指針では「カメムシ類」、「モモシンクイガ」を記載。
1B	クロルピリホス	ダーズバンDF					①			防除指針では「モモシンクイガ」を記載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン水和剤 3 4	○				①	①		防除指針では「アブラムシ類」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」を記載。
3A	ベルメトリン	アディオン乳剤		○			①		○	防除指針では「カメムシ類」、「モモシンクイガ」、「モモハモグリガ」を記載。
4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	○	○			①	①	○	防除指針では「アブラムシ類」、「カメムシ類」、「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」、「モモハモグリガ」を記載。
12C	B P P S	オマイト水和剤				○				防除指針では「ハダニ類」を記載。
20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル				○				防除指針では「ハダニ類」を記載。
20D	ビフェナゼート	マイトコーネフロアブル				○				防除指針では「ハダニ類」を記載。
21A	テブフェンピラド	ピラニカ水和剤				○				防除指針では「ハダニ類」を記載。
21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル				○				防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シエノピラフェン	スターマイトフロアブル				○				防除指針では「ハダニ類」を記載。
25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル				○				防除指針では「ハダニ類」を記載。
28	クロラントラニリプロール	サムコルフロアブル 1 0					①	①	○	防除指針では「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」、「モモハモグリガ」を記載。
28	シアントラニリプロール	エクシレルSE					①		○	防除指針では「モモシンクイガ」、「モモハモグリガ」を記載。
28	テトラニリプロール	ヨーバルフロアブル							○	防除指針では「モモハモグリガ」を記載。
28	フルベンジアミド	フェニックスフロアブル					①	①	○	防除指針では「モモシンクイガ」、「ナシヒメシンクイ」、「モモハモグリガ」を記載。
1B/1B	M E P / P A P	ラビキラー乳剤			○					防除指針では「コスカシバ」を記載。
1B/1B	マラソン / M E P	トラサイドA乳剤			○					防除指針では「コスカシバ」を記載。
-	(E, Z)-オクタデカ-2, 13-ジエニル=アセート・ (E, Z)-オクタデカ-3, 13-ジエニル=アセート・ (Z, Z)-オクタデカ-3, 13-ジエニル=アセート	スカシバコンL			②					防除指針では「コスカシバ」を記載。

①シンクイムシ類での登録。

②果樹類での登録。

(注) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認する。

4)ぶどう

(1)防除法(殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した10a当り散布液量(または希釈水量)は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量(または希釈水量)の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
褐 斑 病	落葉期間 (11月～3月) 5月上旬 ～収穫後	○ 園内を清掃する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤80 ジマンダイセン水和剤	
黒とう病	落葉期間 (11月～3月) 休眠期 5月上旬 ～収穫後	○ 前年の被害つる、被害果粒は集めて適切に処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 パスポート顆粒水和剤 ベンレートT水和剤20 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 マネーじDF	
さび病	落葉期間 (11月～3月) 7月上旬 ～収穫後	○ 園内を清掃する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オンリーワンフロアブル ジマンダイセン水和剤 アミド系剤 フルーツセイバー	○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)
灰色かび病	落葉期間 (11月～3月) 発芽前 ～開花期 開花直後 ～落弁期 開花期 ～幼果期	○ 被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤80 トップジンM水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ゲッター水和剤 スイッチ顆粒水和剤 パスワード顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オンリーワンフロアブル ストロビルリン系剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 アミド系剤 フルーツセイバー ロブラール水和剤	○ スイッチ顆粒水和剤及びパスワード顆粒水和剤は、果実肥大中期(あずき大)以降(有袋栽培の場合は袋掛け前まで)の散布は避ける。 (果粉の溶脱防止) ○ パスワード顆粒水和剤は、スチューベン等一部品種で展葉直後の若葉に葉害の恐れがあるので注意する。 ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は年1回とし、連用しない。 (耐性菌出現防止)
晩 腐 病	落葉期間 (11月～3月) 休眠期 5月下旬 ～8月中旬	○ 前年の被害つるや巻きひげなどは、剪除し集めて適切に処分する。 ○ 次の薬剤を散布する。 デランフロアブル パスポート顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル オーソサイド水和剤80 ホライズンドライフロアブル ○ 被害粒は見つけ次第摘み取る。	○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は年1回とし、連用しない。 (耐性菌出現防止) ○ アミスター10フロアブル及びホライズンドライフロアブルは、果実肥大中期(あずき大)以降(有袋栽培の場合は袋掛け前まで)の散布は避ける。 (果粉の溶脱防止)

(2) 農薬の使用方法
○ぶどう (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	褐 斑 病	黒 とう 病	さ び 病	灰 色 か び 病	晩 腐 病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤				○		
7	ペンチオピラド	フルーツセイバー			○	○		
11	アゾキシストロビン	アミスター10フロアブル					○	
11	ピリベンカルブ	ファンタジスタ顆粒水和剤				○		
2	イブロジオン	ロブラール水和剤				○		
3	イミベンコナゾール	マネージDF		○				
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル			○	○		
17	フェンヘキサミド	パスワード顆粒水和剤				○		
M4	キャブタン	オーソサイド水和剤80	○			○	○	
M5	TPN	パスポート顆粒水和剤		○			○	
M9	ジチアノン	デランフロアブル					○	
10/1	ジェトフェンカルブ／チオファネートメチル	ゲッター水和剤				○		
9/12	シプロジニル／フルジオキシニル	スイッチ顆粒水和剤				○		
27/11	シモキサニル／ファモキサドン	ホライズンドライフロアブル					○	
M3/1	チウラム／ベノミル	ベンレートT水和剤20		○				
M3, I:UN	マンゼブ	ジマンダイセン水和剤	○	○	○			

(注) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認する。

4) ぶ ど う

(1) 防除法 (殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
コガネムシ 類成虫	7～8 月	○ 成虫発生期に次の薬剤のいずれかを 250ℓ 散布する。 スミチオン水和剤 4 0	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
フタテンヒ メヨコバイ	7～8 月	○ 幼虫発生期に次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤 4 0	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
ブドウスカ シバ	5～6 月	○ つるに食入した幼虫を刺殺する。 ○ 成虫発生期に次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤 4 0	○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
ブドウトラ カミキリ	越冬期 (12～3 月) 発芽前 (4 月) 7～8 月	○ 越冬期及び育成期に幼虫を刺殺する。 ○ 剪定枝を焼却する。 ○ 次の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。 ガットキラー乳剤 ○ 次の薬剤を枝幹へ散布する。 スミチオン水和剤 4 0	○ 枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。 ○ ぶどうでは対象種が特定されているので注意する。 ○ スミチオンは使用時期が品種により異なるので注意する。
トラカミキ リムシ	越冬期 (12～3 月) 発芽前 (4 月)	○ 越冬期及び育成期に幼虫を刺殺する。 ○ 剪定枝を焼却する。 ○ 次の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。 サッチューコート S	○ 枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。 ○ ぶどうでは対象種が特定されているので注意する。

(2) 農薬の使用法

○ぶどう（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	コ ガ ネ ム シ 類	フ タ テ ン ヒ メ ヨ コ バ イ	ブ ド ウ ス カ シ バ	ブ ド ウ トラ カ ミ キ リ	トラ カ ミ キ リ ム シ	備考
1B	MEP	ガットキラー乳剤					○	防除指針では「ブドウトラカミキリ」を記載。
1B	MEP	サッチューコートS					○	防除指針では「トラカミキリムシ」を記載。
1B	MEP	スミチオン水和剤40	①	○	○	○		防除指針では「コガネムシ類」、「フタテンヒメヨコバイ」、「ブドウスカシバ」、「ブドウトラカミキリ」を記載。
			①	○	○	○		防除指針では「コガネムシ類」、「フタテンヒメヨコバイ」、「ブドウスカシバ」、「ブドウトラカミキリ」を記載。

①コガネムシ類成虫での登録。

(注) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合がありますので、使用する際は農薬の容器（袋）のラベルを確認する。

5) う め

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
かいよう病	展葉初期 ～5月中旬	○ 次の薬剤を散布する。 アグリマイシン-100 スターナ水和剤	○ アグリマイシン-100 は「収穫 90 日前まで」の登録 なので、使用時期に注 意する。
黒 星 病	落葉期間 (11 月～3 月) 5 月上旬 ～6 月中旬	○ 被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 イオウフロアブル コロナフロアブル サルファーゾル オーシャイン水和剤	○ DMI 剤の使用は年 2 回以内とし、連用しな い。 (耐性菌出現防止)
変 葉 病	生育期間 随時	○ 被害部を見つけ次第、土中に埋める等して処分する。 ○ 果樹園周辺の中間宿主（ヤマカシユウ）を伐採する。	

(2) 農薬の使用方法

○うめ (殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	かい よう 病	黒 星 病	備考
31	オキシリニック酸	スターナ水和剤	①		●小粒核果類 (すももを除く) での登録
3	オキシポコナゾールフマル酸塩	オーシャイン水和剤		○	
41/25	オキシテトラサイクリン/ストレプト マイシン硫酸塩	アグリマイシン-100	○		
M2, I:UN	硫黄	イオウフロアブル		○	
M2, I:UN	硫黄	コロナフロアブル		○	
M2, I:UN	硫黄	サルファーゾル		○	

①小粒核果類 (すももを除く) での登録。

(注) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器 (袋) のラベルを確認す

5) う め

(1) 防除法 (殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
アブラムシ類	4～6 月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アディオン水和剤 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤 3 4 マラソン乳剤	○ ダイアジノン水和剤 3 4 は「小粒核果類（すももを除く）」として登録されている。
アメリカシロヒトリ	4～5 月 8～9 月	○ 幼虫ふ化初期の群生している枝は、除去して焼却する。 ○ 若齢幼虫期に次の薬剤いずれかを散布する。 スミチオン乳剤 ダイアジノン水和剤 3 4	○ ダイアジノン水和剤 3 4 は「小粒核果類（すももを除く）」として登録されている。
カイガラムシ類	越冬期 (3 月) 5～8 月	○ 発芽前にマシン油乳剤か石灰硫黄合剤を散布する。 (「落葉果樹」の項を参照) ○ 幼虫定着期に次の薬剤のいずれかを散布する。 マラソン乳剤	
コスカシバ	休眠期 (10～4 月)	○ 幼虫を刺殺する。 ○ 多発園ではスカシバコン L を使用してもよい。 (「環境にやさしい防除法 4) 性フェロモン剤」の項を参照)	○ 幼虫の刺殺は、雨上がりに虫糞をめあてに行う。

(2) 農薬の使用方法

○うめ(殺虫剤)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	ア ブ ラ ム シ 類	ア メ リ カ シ ロ ヒ ト リ	ウ メ シ ロ カ イ ガ ラ ム シ	コ ス カ シ バ	備 考
1B	MEP	スミチオン乳剤	○	○			防除指針では「アブラムシ類」、「アメリカシロヒトリ」を記載。
1B	ダイアジノン	ダイアジノン水和剤 3 4	③	③			防除指針では「アブラムシ類」、「アメリカシロヒトリ」を記載。
1B	マラソン	マラソン乳剤	○		②		防除指針では「アブラムシ類」、「ウメシロカイガラムシ」を記載。
3A	ベルメトリン	アディオオン水和剤	○				防除指針では「アブラムシ類」を記載。
-	(E, Z)-オクタデカ-2, 13-ジエニルアセート・ (E, Z)-オクタデカ-3, 13-ジエニルアセート・ (Z, Z)-オクタデカ-3, 13-ジエニルアセート	スカシパコン L				④	防除指針では「コスカシバ」を記載。

①小粒核果類での登録。

②カイガラムシ類での登録。

③小粒核果類(すももを除く)での登録。

④果樹類での登録。

(注) 同名の剤であっても農業会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認する。

6) か き

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
うどんこ病	落葉期間 (11月～3月) 5月中旬 ～6月中旬	○ 園内を清掃する。 ○ トップジンM水和剤を散布する。	
落葉病 (角斑落葉病、円星落葉病)	落葉期間 (11月～3月) 6月上旬 ～8月中旬	○ 園内を清掃する。 ○ 肥培管理に注意し樹勢を旺盛にする。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル DMI 剤 オンリーワンフロアブル チオノックフロアブル トレノックスフロアブル キノンドーフロアブル キノンドー水和剤 40 ゲッター水和剤	○ ストロビルリン系剤の使用は年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止) ○ DMI 剤の使用は年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止)
炭 疽 病	休眠期 6月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 2-10式ボルドー液 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤 40 トップジンM水和剤 ベンレート水和剤	○ トップジンM水和剤、ベンレート水和剤は連用を避ける。(耐性菌出現防止)

(2) 農薬の使用法

○かき(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	うどんこ病	炭疽病	落葉病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンM水和剤	○	○		
1	ベノミル	ベンレート水和剤		○		
11	アゾキシストロビン	アミスター10フロアブル			○	
3	テブコナゾール	オンリーワンフロアブル			○	
M1	有機銅	キノンドーフロアブル		○	○	
M1	有機銅	キノンドー水和剤40		○	○	
M3	チウラム	チオノックフロアブル			○	
M3	チウラム	トレノックスフロアブル			○	
10/1	ジエトフェンカルブ／チオファネートメチル	ゲッター水和剤			○	
M1/-	硫酸銅五水塩／生石灰	2-10式ボルドー液		○		
52	イブフルフェノキン	ミギワ20フロアブル		○		

(注) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合がありますので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認する。

6) か き

(1) 防除法 (殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
イ ラ ガ 類	6 月下旬～ 8 月上旬	○ 次の薬剤を散布する。 スミチオン水和剤 4 0	
カイガラム シ類	越冬期 (12～4 月)	○ バンド誘殺、粗皮削りを行う。 ○ 発芽前に次の薬剤のいずれかを散布する。 マシン油乳剤 9 5 石灰硫黄合剤 (「落葉果樹」の項 参照)	
カキクダア ザミウマ	展葉期 (5 月上旬)	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 オルトラン水和剤 パダン水溶剤	
カキノヘタ ムシガ	越冬期 (12～3 月) 6～8 月	○ バンド誘殺、粗皮削りを行う。 ○ 次の薬剤いずれかを 2～3 回幼虫期に散布する。 スミチオン水和剤 4 0 パダン水溶剤	
チャノキイ ロアザミウ マ	6～7 月	○ 樹の仕立、環境を改善し、通風、採光を図る。 ○ 発生最盛期に次の薬剤いずれかを散布する。 オルトラン水和剤 パダン水溶剤	○ 枝梢内に幼虫で越冬し、幼虫食入部は黒変する。

(2) 農薬の使用方法

○かき(殺虫剤)

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	イ ラ ガ 類	カ キ ク ダ ア ザ ミ ウ マ	カ キ ノ ヘ タ ム シ ガ	チ ャ ノ キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	備 考
1B	MEP	スミチオン水和剤40	○		○		防除指針では「イラガ類」、「カキノヘタムシガ」を記載。
1B	アセフェート	オルトラン水和剤		○		○	防除指針では「カキクダアザミウマ」、「チャノキイロアザミウマ」を記載。
14	カルタップ	パダン水溶剤		①	○	①	防除指針では「カキクダアザミウマ」、「チャノキイロアザミウマ」、「カキノヘタムシガ」を記載。

①アザミウマ類での登録。

(注) 同名の剤であっても農薬会社によっては登録内容が異なる場合があるので、使用する際は農薬の容器(袋)のラベルを確認す

7) いちじく

(1) 防除法(殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
疫 病	6月～7月	○ 園内の排水を良くする。 ○ 敷きわらをする。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 Zボルドー コサイド 3000	○ 両剤とも日照不足、多雨時には薬害のおそれがあるので使用しない。 ○ コサイド 3000 は薬害軽減のため、必ずクレフロンを加用する。
株 枯 病	収穫後～ 休眠期 随時	○ トップジン M オイルペーストを主幹部に塗布する。 ○ 挿し穂は、無病園から採取する。 ○ 発病園では、穂木採取や苗木育成を絶対に行わない。 ○ 発病株は、早期に抜根して処分する。	

(2) 農薬の使用法

○いちじく(殺菌剤)

FRAC コード	有効成分名	薬剤名	疫病	株 枯 病	備考
1	チオファネートメチル	トップジンMオイルペースト		○	
M1	塩基性硫酸銅	Zボルドー	○		
M1	水酸化第二銅	コサイド3000	①		コサイド3000は薬害軽減のため、 クレフノンを必ず加用する。
-	炭酸カルシウム	クレフノン(注①)			

①コサイド3000は薬害軽減のため、クレフノンを必ず加用する。

7) いちじく

(1) 防除法(殺虫剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～3000」等と記載した10a当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
カミキリムシ類 (クワカミキリ、キボシカミキリ)	休眠期 産卵期 ～幼虫食入 成虫発生初期	○ 幼虫を刺殺する。 ○ クワカミキリの産卵期（8～9月）に産卵痕を木づちなどで打ち、卵をつぶす。 ○ バイオリサ・カミキリを処理する。 （「環境にやさしい防除法 3）生物農薬（天敵製剤、微生物防除剤）」の項 参照）	○ 白塗剤等を使用すれば産卵防止効果がある。

(2) 農薬の使用方法

○いちじく（殺虫剤）

IRAC コード	有効成分名	薬剤名	カ ミ キ リ ム シ 類	備 考
3A	フェンプロパトリン	ロビンフッド	①	防除指針では「カミキリムシ類」を記載。
-	ボーベリア ブロンニアティ	バイオリサ・カミキリ	①	防除指針では「カミキリムシ類」を記載。

①果樹類での登録。